

～ 商人の宿場町を訪ねて～

お う し ゅ く し ゅ う ら く

鶯宿集落

現地散策

ガイドブック



笛吹市教育委員会
文化財課主催



散策コース



★スタート……芦川ふれあいプラザ

- 1・秋葉山木燈籠
炭焼窯～題目塔～兜造民家～
- 2・諏訪神社
旧鶯宿分校
- 3・地藏堂
- 4・本国寺
- 5・稲荷神社
経王石～髭題目
- 6・中村常夜燈
兜造民家～長徳寺石垣供養塔
- 7・長徳寺
伊勢大神宮馬頭観音
- 8・石尊山石燈籠



★ゴール……芦川ふれあいプラザ

車で5分ほどの場所に芦川農産物直売所「おごっそうや」があります。

(芦川の特産物のお買い物をお楽しみ下さい)

※トイレが『おごっそうや』にしかありません。

1. 秋葉山木燈籠

静岡県浜松市にある秋葉山をご神体とする火の神様の信仰で立てられました。



木の燈籠はめずらしいね！
2年前までは、お祭りもしていたみたいだよ！



※今はめずらしい炭焼窯・・・



鶯宿峠を利用して炭を運んでいんだ！炭は芦川地域の貴重な現金収入源だったんだね！



芦川は、山梨の中でも炭の産地として、かつては多くの人々が炭焼きをし、重い炭俵を担いで峠を越え、甲府盆地のあちらこちらへ売りに歩いたといひます。

★ 題目塔 だいもくとう

題目塔（だいもくとう）は、日蓮宗が信仰する南無妙法蓮華経と刻まれた、鎮魂を目的とする供養塔です。これがあるところは、日蓮宗の盛んな地域だったことを現します。

2. 鶯宿諏訪神社 おうしゆくす わじんじゃ

本殿は、一間社流造、向拝（こうはい）一間。拝殿（はいでん）は奥行き四間、正面六間の入母屋屋根。諏訪神社境内は、19世紀前半頃まで御崎神社があり、諏訪神社は参道石段を降りた西側の屋敷地付近にあったことが絵図等の資料から分かっています。

鶯宿の長徳寺寺記によると、現在の位置に移ったのは万延元年（1860年）のことです。



★旧鶯宿分校

鶯宿の子ども達に通った小学校があったんだよ！



3.地蔵堂

地蔵とは、釈迦の没後、弥勒仏が出現するまでの無仏の期間、六道で苦しむ衆生（しゅじょう）を教化・救済する菩薩。日本では平安時代から広く信仰されるようになります。密教などでは菩薩形をとりますが、一般には左手に宝珠、右手に錫杖（しゃくじょう）を持ち、頭を丸めた僧形の像です。六道の救済に当たることから六地蔵の信仰が生まれます。また、子供を守り、幼くして死んで賽（さい）の河原で苦しむ子供を救済すると信じられています。このような地蔵を祀ったお堂が、地蔵堂です。

・六道（ろくどう、りくどう）とは、仏教において迷いあるものが輪廻するという、6種類の迷いある世界のこと。

・衆生とは生命のあるすべてのもの。人間をはじめすべての生物のこと。



養蚕と兜造民家^{かぶとづくり}

芦川では、養蚕が盛んになる以前は、冬の寒さの影響もあって畑ではアワ、ヒエ、ムギ、トウモロコシ、サツマイモなどの自給自足用作物を作り、炭焼きなど、山からの恵みを換金^{かんきん}して暮らしていました。明治から昭和初期にかけて養蚕が盛んになり、現在では、高冷地野菜の栽培が盛んになっています。

江戸時代、谷村藩^{やむら}（現在の都留市付近）が良質の絹織物の産地であったことから、芦川地域で生産される良質の絹糸は重宝されてきました。明治時代、養蚕はさらに盛んになり、この頃、多くの家々の屋根が兜造に改築されました。現在、芦川に残っている兜造民家の多くは、明治時代から大正時代にかけて造られたものですが、なかには、18世紀に建てられた家の屋根を改造して兜造にしたものが見られます。

芦川町には150棟を超える兜造民家群が残っていますが、これほどの数の古民家群が残る地域は全国的にも例がありません。



蚕の幼虫

いなりじんじゃ

5. 稲荷神社



稲荷神社には必ずいるきつね・・・
お稲荷さん」ときつねの関係は？

「稲荷大神様」のお使い（眷属^{けんぞく}）はきつねとされています。但し野山に居る狐ではなく、神様同様に我々の目には見えません。そのため白（透明）狐＝“びゃっこさん”とってあがめます。勿論「稲荷大神様」はきつねではありません。

Q なぜ稲荷と名前がついたの？

「イネが生る」稲が生育するという意味でイナリは食物の神様なのです。

Q なぜ？きつねなの？

稲荷大神は食物の神であり別名「みけつのかみ」と言います。きつねの事を“けつね”と言った事からきつねの神様となりました。

Q 「お稲荷さん」は「朱塗り」なの？

朱色は、魔力に対抗する色ともされていて、古代の宮殿や神社仏閣に多く用いられています。ただ、お稲荷さんだけが朱塗りではなく、朱塗りの神社は他にも多くあります。また朱の原材料は水銀＝丹です。これは昔から木材の防腐剤として使われてきました。



きょうおうとう 経王塔（石）とは？

経王とは、仏教の経典の中で、最もすぐれたものという意味で、法華経のことをいい、経王塔は法華経の経典供養塔です。

書写塔は妙法経塔のことで、妙法経つまり法華経を写経し、埋経するために供養塔を建立しました。妙法華経写経は、聖なる地（山頂）の浄水を汲みに行く（お水迎え）苦行をとるものなので、心身を浄めて行います。

綺麗に字が刻まれているね！この下に法華経の文字を書いた石がたくさん埋められているのかな？



髭題目ヒゲトビって何かわかるかな？

南無妙法蓮華經を紙や石に大書する際、一画一画をヒゲのようにはねて書きます。これを刻んだ題目塔を『髭題目塔』といいます。日蓮宗のお寺があるところにはよく立っています。



文字に注目！



本当に髭のような文字だね！



6. 中村常夜灯

昔の街灯だよ。
他の場所にもある
から調べてみよう！



・ 常夜灯とは？

夜道の安全のため、街道沿いに設置されている常夜灯は現在で言う街灯の役目を果たして、街道の道しるべとして設置されているものも多く見られます。

鶯宿には、「中村」「お向川」「里道」「西村」の四箇所にお秋葉権現の常夜灯が祀られています。

※よく見る秋葉山常夜灯とは？

秋葉山という火の神様を祀っています。火の神様を信仰する秋葉講という集まりで建てられました。

ちょうとくじいしがきくようとう 長徳寺石垣供養塔

石垣供養塔とは？

鶯宿の長徳寺門前に造立されている石垣供養塔は、石垣工事の完成に際して、石垣が崩れないよう安全を祈願して供養されたものなのです。



ばいけいざんちようとくじ



7. 梅溪山長徳寺

臨濟宗こうがく向獄寺末

開山は、全養臺山（ぜんようたいざん）和尚、開創当時は真言宗で、文明 11 年（1479）または弘治元年（1555）に臨濟宗に改宗したと伝わっています。本堂は、正面八間、側面七間半で屋根は入り母屋造、安永 8 年（1779）の建立と伝わっています。足利幕府 11 代将軍よし義澄すみの近習、大勝さんと宮川さんの一族が芦川の地に隠棲し、大勝さんの子孫が長徳寺を足利義澄公の牌所としてほだい菩提とむらをとむら吊ったという伝説が残っています。長徳寺山門の石段左右の石垣や本堂裏の高石垣の技術もその後の芦川に生かされています。



長徳寺の石垣に注目！



時代の流れや技術、流行の変化により石垣の積みかたにも変化がみられます。

長慶寺の石垣は、**笑い積み**(わらいづみ) といって、大石の周りに比較的小さな石を積む積み方です。

ぜひ、実際にご覧になってみて下さい。

※歩きながら、他の場所にもある石垣にも注目して見比べてください

いせだいじんぐうばとうかんのん
伊勢大神宮馬頭観音



ここに注目!

近世以降は国内の流通が活発化し、馬が移動や荷運びの手段として使われることが多くなりました。これに伴い馬が急死した路傍や芝先（馬捨場）などに馬頭観音が多く祀られ、動物への供養塔としての意味合いが強くなってきました。特に、このような例は中馬街道などで見られます。なお、「馬頭観世音」の文字だけ彫られた石碑は、多くが愛馬への供養として祀られたものです。伊勢大神宮馬頭観音は、頭に馬の頭がのっている観音様が彫られています。

8.石尊山石燈籠



県道沿いにあ
って、その北
側約 30m の
石尊山中腹に
木の社殿を祀
っているよ！



※石尊信仰
神奈川県伊勢原市にある大山阿夫利神社（おおやまあふりじんじゃ）を中心とする山岳信仰で、大山石尊といわれています。山梨では、水利の神として祀られ、石尊講という集まりをつくり、代表者が大山に参詣しました。これを大山詣といいます。

芦川農産物直売所

おごっそう家

「おごっそう」とは甲州弁で「御馳走」を意味します。文字通り店内には芦川産の新鮮野菜や加工品がずらりと並んでいます。

芦川は笛吹市の中でも他に比べ低気温となるため、『この時期に！？』と驚く野菜も珍しくありません。

建物の外観は芦川特有の兜造りの民家をモチーフにしています。

芦川の特産品としてこんにゃく芋から作られたこんにゃくはもちろん、高原育ちの豆類・ほうれん草、清流に育ったわさびなど、生産者さんが手塩にかけて育てた農産物は有名です。特に標高の高い芦川地区で育った豆類はふっくらやわらかいのが特徴で、栽培されている種類の多さにも目を見張ります。

さらに、加工品も豊富で、地元のおばちゃん手作りするコロッケ「にんじゃくん」や草もち、地菜炒めや漬物はどれも絶品です！

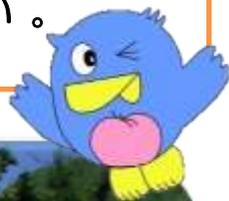


芦川町鶯宿(おうしゆく) てくてくマップ





鶯宿集落以外にも芦川には昔の人の文化や歴史がたくさん残っています。ぜひ、みなさんで芦川の魅力をたくさん見つけてください。



～ 商人の宿場町を訪ねて～

鶯宿集落現地散策会

笛吹市教育委員会
文化財課

TEL 055-261-3342

END